

令和5年度第1回倉吉市地域公共交通会議
会議録（要旨）

（日時）令和5年7月20日（木）15時～15時40分

（場所）倉吉市役所本庁舎3階大会議室

（出欠）会長、副会長、委員13名（欠席委員4名）、随行者2名、事務局2名

＝ 次第 ＝

1 開会

2 挨拶

3 議事

交通空白地有償運送に係る更新登録について【承認】

4 報告

（1）北谷線のダイヤ改正（案）について

（2）ノーマイカー運動「100金」バスの実施について

（3）倉吉市周遊滞在型モビリティ向上計画の策定について

（4）次期鳥取県中部地域公共交通計画の策定スケジュールについて

5 その他

6 閉会

≪主な意見等≫

2 挨拶

（河村会長）

- 本会議は、地域の需要に応じた住民の生活に必要なバス等の旅客輸送の確保その他旅客の利便の増進を図り、地域の実情に即した輸送サービスの実現に必要な事項を協議するため、設置している組織である。
- 本日は、交通空白地有償運送の登録更新に関する審議をはじめ、路線バスのダイヤ改正案等の報告等を受けることとしている。
- 地域公共交通のリ・デザイン（再構築）を通じて、暮らしよし倉吉の実現に寄与できるよう、本会議もしっかりと取り組んで参りたいので、委員各位の慎重審議をお願いする。

3 議事

交通空白地有償運送に係る更新登録について

（事務局）

- NPO たかしろが実施している交通空白地有償運送に関し、今月末で登録期間が満了するため、同法人が行う登録更新の申請に関して審議するもの。
- 本運送の目的は、地域の高齢者、障がい者等の自宅とバス停の移動を容易にすることで、住民の主体的で生き生きとした生活を支援することを目的としている。
- 平成16年8月に運行を開始し、これまで複数回の更新を行ってきた。直近は令和2年7月。今回の更新に伴う変更点はなし。現在の運行条件のまま更新手続きを行っていききたい。

- 運行実績としては、平成 29 年度から減少幅がやや大きくなり、更に令和 2 年度からコロナの影響で激減している。

(NPO たかしろ)

- 利用者は少ない状況だが、この運行を頼ってくれている住民が少なからず存在するので、その住民のためにも運行を継続していきたい。今回の更新登録の申請を承認してほしい。

= 採決・承認 =

(事務局)

- 本会議の承認を得たので、後日、更新登録の申請手続きに必要な本会議の合意証明を会長名で発行する。

4 報告

(1) 北谷線のダイヤ改正 (案) について

(事務局)

- 5 月 30 日に北谷地区からの要望を受け、バス事業者と協議し、6 月 28 日付けで本市から同地区へ回答したもの。今月末までに同地区からダイヤ改正案への意見が返ってくる予定。同意を得られれば、本年 10 月 1 日から改正予定。

(日ノ丸自動車株)

- 北谷地区から「北谷在住の高校生が現在のダイヤでは北谷線を利用できず困っており、ダイヤの改善を求めてほしい」との要望があった。
- 現在、北谷線の始発は時間帯が早すぎ、2 本目は反対に遅くなって登校時間に間に合わないため、保護者が横田まで送迎し、他の路線を利用しているとのこと。
- 北谷在住の高校生が北谷線を通学で利用できるように検討した結果、始発を 30 分遅らせることで対応したいと考えている。このダイヤ改正により、市内のどの高校にも登校時間に間に合うように運行できる見込み。

(2) ノーマイカー運動「100 金」バスの実施について

(事務局)

- 鳥取県中部地域公共交通協議会の取組ではあるが、昨年度に引き続き、今年度も中部地域のノーマイカー運動の一環で「100 金バス」を実施する。
- 昨年度との変更点は、期間中の金曜日に加え土曜日も実施すること、障がい者手帳をお持ちの方は一律 50 円とすること、子どもを対象とした乗車キャンペーンを実施することである。
- 委員各位には、周知広報への積極的な協力をお願いしたい。

(3) 倉吉市周遊滞在型モビリティ向上計画の策定について

(事務局)

- ループバスとグリーンスローモビリティという電動カートを活用したモビリティ向上を軸とした観光まちづくりの方向性を示す計画を本年 3 月末に策定した。
- その計画の実現に向けた具体策を検討するため、本年度も 10 月の 1 か月間、グリーンスローモビリティの運行実験等を実施する。

- 今後、本格導入に向けて本会議でも審議することになってくると思うので、ぜひ、委員各位にも実験中に乗車をいただき、また本会議で議論をお願いしたい。

(河野委員)

- グリーンスローモビリティでこのエリアを1周するのにどのくらいの時間がかかるか。また、運行台数はどのくらいを予定しているのか。

(事務局)

- 定時定路線の運行の場合、15～20分くらいで1周できる。観光モデルコースの予約制運行は、2時間コースで運行する予定である。
- 今回の実証実験は基本1台で運行。期間中2日間だけ2台運行とする予定。将来的には、今回の実証実験で導入に向かうということになれば、収支を試算して導入台数を決定していくことになる。なお、全国的な事例としては、1～2台の導入・運行というところである。

(4) 次期鳥取県中部地域公共交通計画の策定スケジュールについて

(事務局)

- 路線バスの再編を進めてきた現在の中部地域公共交通計画が来年度末で満了することに伴い、今年10月頃から次期計画の策定に向けた検討に入っていく。
- 今年度中はアンケート等の実施による現状把握、来年4月から具体的な検討に入り、来年10～11月頃に素案、再来年の1～2月頃に最終案を固めていくことになる。
- 本会議で来年12月頃に素案に対する審議を行う必要があると思う。その審議に向け、随時、本会議の場で進捗状況を報告するので、委員各位におかれては、100金バスを利用してもらいながら、現在のバス路線や利用促進策等を検討しておいてほしい。

5 その他

高速バス利用促進支援事業の実施について

(事務局)

- コロナや原油価格・物価高騰等の影響を受けている高速バスを支援するため、6月補正予算で支援制度のための予算を計上した。
- 市の予算を活用しながら乗車運賃の割引を実施するもの。近々、事業開始の広報等を行うと思うので、ぜひ利用していただきたい。

(河野委員)

- いつ頃から利用できる見込みか。お盆から利用できるか。

(事務局)

- お盆には間に合わない。利用できるのは9月頃になる見込み。

以上